貴重書
塩屋文正
初編合
之編迄

国文
24L
43

嘉永六癸丑春新鐫目錄

大晦日曙草紙 十九編 京山作 廿編 芳綱画
八犬傳犬の草紙 廿四編 仙果錄 豊国画 三十編 國貞画
御贄美少年始 八編 一九錄 九編 國綱画
俠客傳仆摸略說 八編 西馬譯 九編 國輝画 十編 國綱画
嶋巡浪間朝日奈 五編 種員譯 六編 國輝画
鹽屋文正古今草紙合 九編 仙果作 十編 国輝画
連理翅山雞奇緣 三編 西馬補 四編 芳綱画
松浦舩水棹婦言 初 仙果錄 二 國芳画 三
八重撫子累物語 初 仙果錄 二 國貞画 三
花蓑笠梅雅物語 初 西馬譯 二 國輝画 三
春柳錦花皿 五編 一九錄 六尾 芳綱画

地本錦繪 東都南傳馬町二丁目 問屋 蔦屋吉藏板

古今草紙合

第二輯

仙果作
貞秀画

己酉春發兌

紅英堂
新刊

古今さうしあつせ身一番たきはや文正初編

塩屋文
初編下
塩屋
己酉春

西春新刊

塩屋文正 初編 下帙

紅英堂梓

仙果作

豊國画

塩屋文正
萬吉版
二編下
二編上
仆題 豊國画

塩屋文

三編上

仲題 豊國画

三編下

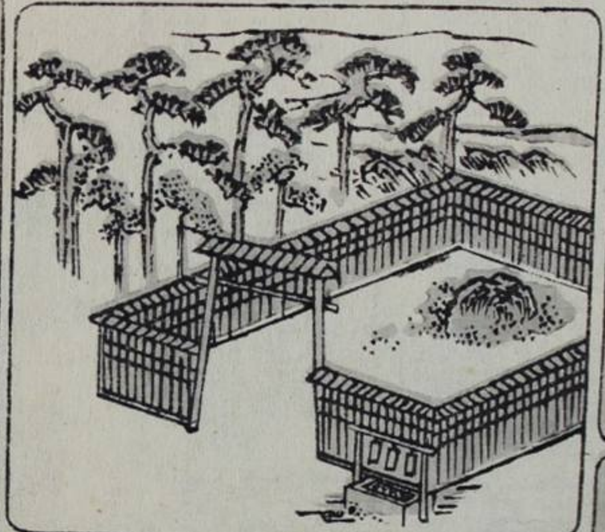
蔦吉板

i 40.8.26
ア306531

笠亭仙果作

一雄齋國輝画

鹿島要石之圖



庚戌春發兌

鹽屋文正

三編

下帙之下

紅英堂版

つぎ

脚色ハ新に設たり。扨此古今草紙合の。第一番の左に出せるハ。祝の草紙といふにより。縁喜をとつたる故なれど。いかにいえひの草紙でも。始から終までも。笑うて計もゐられぬから。喜怒哀樂の光景を交てかくも本意なれど。拙筆にハいかゞハせんと序ともいはれぬ口上をそのなり

嘉永二年酉魁月

笠亭仙果識

常岡文正初屋文太

品商人 道具屋世兵衛
板井藏人列春
於蓮
傅女
小龜
品商人 二季屋藤七

桂館後園之景

鶴瑞苑

雪の御園

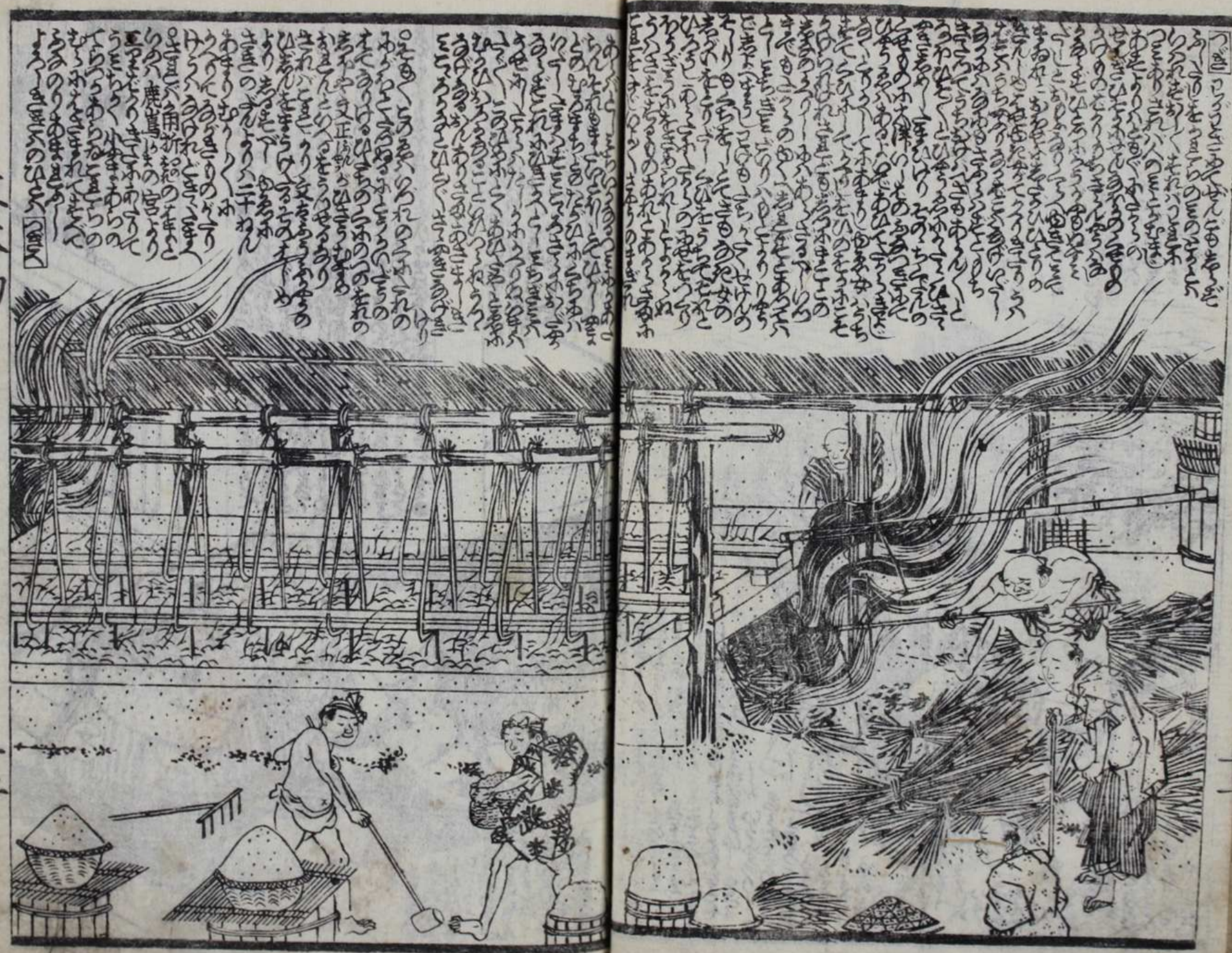
よしとし女「そのいわく、これくおぢ
さハねばのきこえよくとはひ
ゆかさんのきこえからのけんの
おわせそめこミハあんときき
ゆかりハもうとうがのへたわりの
もうてんへいかもとかうしゅうのきて
さんならバおのこそのまわりのごとたくあり
でこのえとこうもうてハらうこうへ
このうちらのごてんハ
はいうんおんでん
よしかうなさえさを
すすむりーたべうきう
いまでハきうらん
よしきまきこの
おんあうてでの
三位殿ちらきちう
うらをちきまのかさこまさ
あらう川みわそうへこれバ尾の

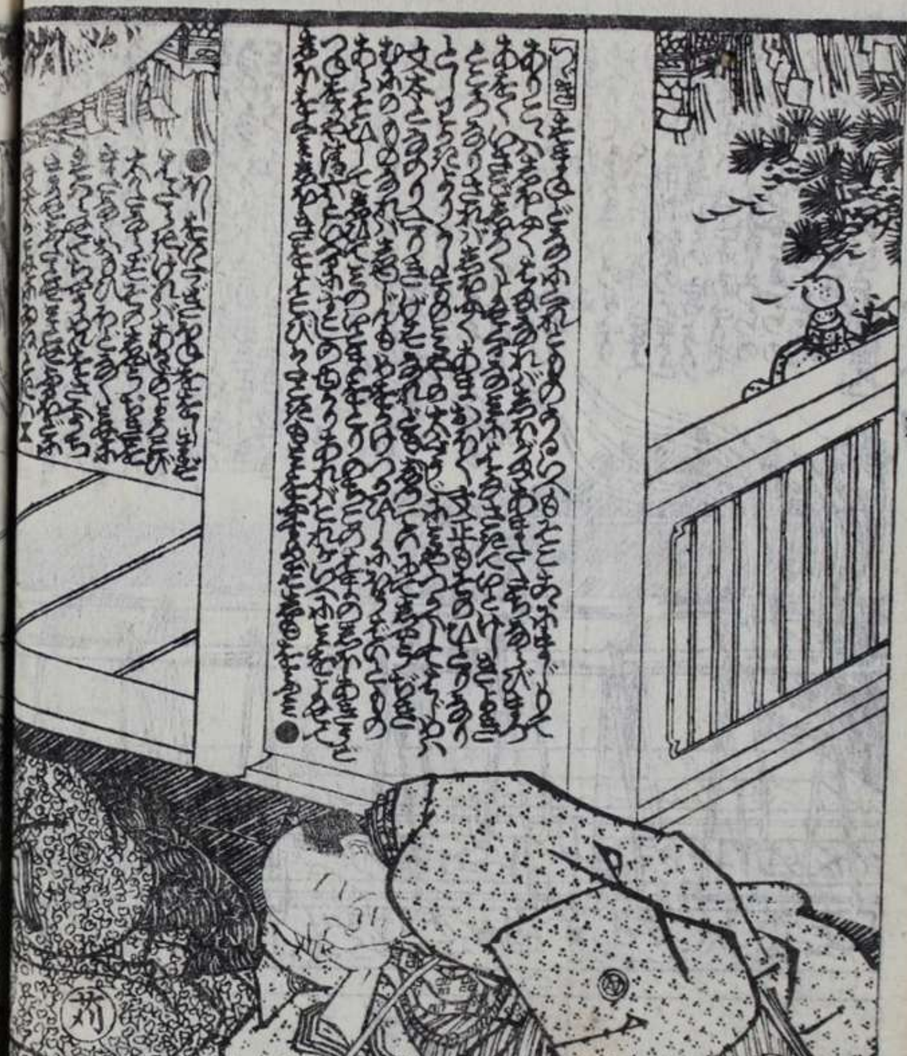
こちのおかしまをひがし山の
ごりんきよーしよを
月まち山のごてんと
いへハもろすぢさぶハすまのごまよ尻と
ゆきのおちうへハさこんけんのせんげんの
ミやうのまよりらてわおすのめ
さらのひちうこちうのうちまきつる
まつさへおのふるまげられてもきの
ミそのとうをけらるつきもまへ参
法師浄念せんすわハ相阿弥轄と
いふ人ぶらべをひろしまうまいる
うさひきろくるみめいあんあり
「ごま」ごてんのおまくざき目あてまり
まづのちやのそれよりハんまの
「ごようのまちハこれからちや」ハテと。
ミきづきのけがハつハまちう」ごまハ
せんげんさまのまーうのごてんの日の
あすぐのものまでもえけのをもる
さ江られそのうふやらくのせんすお
女ハえ子あうあのをとミのぶんハ
りうこときんのこれのとよりのおん
さざめうさんのふうのうちずへ
きうくひやあれまきあれどこへハ
をとミうすの日ぬめあんちんがあら
ぐひふおげてからの川らをぎんぶく
を日あすまひえんぶうをとてとまきこ
あすまのうちあをべうしでも宮へらもき
これハこのあすりふきむきうひきうでも
よきのけのかうよりいまをいやの
でーゆてハでもあすまへトきやべるを
おさへぎこーのまゆこよくをもあ江

玉さえどぢやがらのまバ尻をぬこ良く
これきやもぢさねらのそおへ公へちやく
きゆうぐんだよりへちらりひはうひろ川
もうあらぬれて日くところちうご
こうわんハちやうきうさ日よとき
どのりでわのりきうわりおんけす
站香合おきうちんもりーなくぐし
おまよおんふとまてせられそ良きまさ
からうらはふハへ日よりざの日そ
をとミのえらかくめへ合宮花門
をとミを見ねとミうきうさきのおお
きうとえんーてうまえあのの良べく
おうまりつけ「こまーうの日その
えんあうミまの女中さえ古のむまろうえ
きうらへト「あれまうをてうちち
ららぎ「あんとおり子をいらち
まずの女のおんまくとやさ
さうわら男のつま日気をと
をとミのまえれねとえうすで
ミ良バ女ハ子ろとききの
「いやく 女ハこどもよう
ぜんうまもさうね
ものあれハおうすまひ
うのとうふとき人人きう
おり女かよううきと
あれとようとのでも人も
うかひらうのむそしとれの
とのきまのおさひふうさへ
ききらくへうまもぐの良く まで 「つぎへ」

つゞき

豊国画　仙果作





文
武
友

武

戯作者笠亭仙果編述

土佐掾が正本に先女中の調法ハ。假粧の調度色々の。香に匂ふる花の水。露の玉筆玉匣。二見の浦の浅からぬ。思ひにいづる誰袖の。引手ゆかしく歌草紙」其歌草帋ハいざしらず。今でハ繪冊子帙入。お女中向がせる世中。こちらがせたぢや相山聽て泣さい所望とハ。反魂香の昔より。悲哀処へ落のくる。愁歎場なぞハ大の不得手。されバとて原のまゝに始より終まで。はひに物憂良もなく。めでたくも作まぬよしハ。初編にも記せ如く。四方に八万藏を建など。無造作なる筆力ハ元來なければ威勢もなく。面白くなく可咲くなけれど。塩屋の煙一筋に。ごひいきの御覧をたのミ。辛きおもひで作とはしらで。遅なつと鹵水顔。鹽温石の熱くなり。校合もせぬ稿本をもてやくやらぬの争ひに面も紅葉の蔦屋が新版せくのも道理十月半發販急ぐ頃なりけり

嘉永二年己酉青陽

笠亭仙果記

二位中將敏通卿
鹽濱遊覽圖

鹿島大宮司二男
中臣鹿島速
倭文雄
侍女
波々曽

侍女
真弓
常陸介佐滝義彦
嫡男
同苗糸長

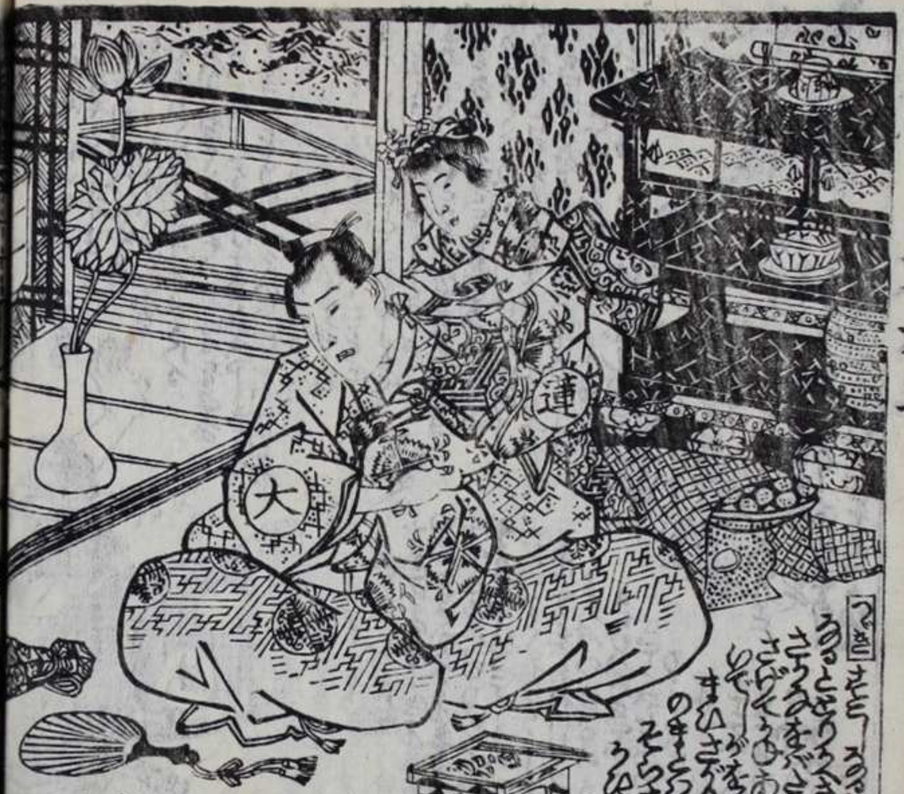
蓮ハ佛道渡らざる上代より我朝ゟ諸人是を賞翫
さうゝ浮図家臭くうゝ櫻山吹萩尾花ともふ
媚く花のりしを後世專佛前のことゟ手向るやうゟ
うりしく賀茂祭ゟ忌るゝハくちをも当賀俗ゟぞ
沼尾ゟ蓮池あるハ常陸風土記ゟ
故事出て虚談の中の実
説あり云其社南郡家北
沼尾池古老曰神世自天
流來水沼所生蓮根味
氣大異甘絶他所〳〵有病者
食此沼蓮早差驗之云云

常陸の國角折の濱ゟうけ
者二ゟりて繁昌〳〵若ハ永代藏大福帳の類ゆゟ書載ぞ
ゆゟ知行ゟハ一万町牛ゟの牧七十ヶ町在家の数三千軒往古の浪速長者ともひ
うくやと覚えそめぞさ〳〵ゝ筆拍子の空言ゟれぞも此濱小燒塩ゟのうぎりハ大ゟ
又左ゲりのめて東八ヶ國ゟ用ゐる塩ハ並ぶ高人ハおゝじかくまで富て栄えもえ戈兒の猶きゝ
中ゟハ並ぶ高人ハおゝじかくまで富て栄えもえ戈兒の猶きゝ
迚ゟ私欲ゟきを神の深く懲さなゝ世間の為風ふうりふうつゝまゞの人を
救たびまゝ〳〵なゝゟ方仮とこそゝりけれさきゟ彼ゞ妻妾ハ贅ゟ畳ゟ非ゟ命ゟ
を果〳〵住倦て淡路那の椅源長者ゞ淡〳〵ゝ次年の夏ゟ及び我ゟ分ゟも
借すし人のゟゟ小家をもゝてまきゝ返の家ハ金ゟを
もせらるべ〳〵と人ものひ我もおりく人ゞ百ゟ餘ゟ人ゞ〳〵ゝ住〳〵角ゟ
とそろゟ中おりひやまゝてあびんゟりゟ女児ゟ達ハ雁ゟのゟ来妻程ゟ出世
九年ゟと義ゟそ淡ゟるゟより他所へ移〳〵ゝ子ゟ尾の蓮花
雁ゟハもちろんこの所神ゟもおりく〳〵始の年人大宮司の放ゟるゟりて眼ぐひ
ゟきさやとおりひ玄ゟをひきかへ〳〵とゟ悲ゟ先沼尾の社ゟ祐で

大

連
文

くぢら汁


連
大

梅
文

前大宮司殿

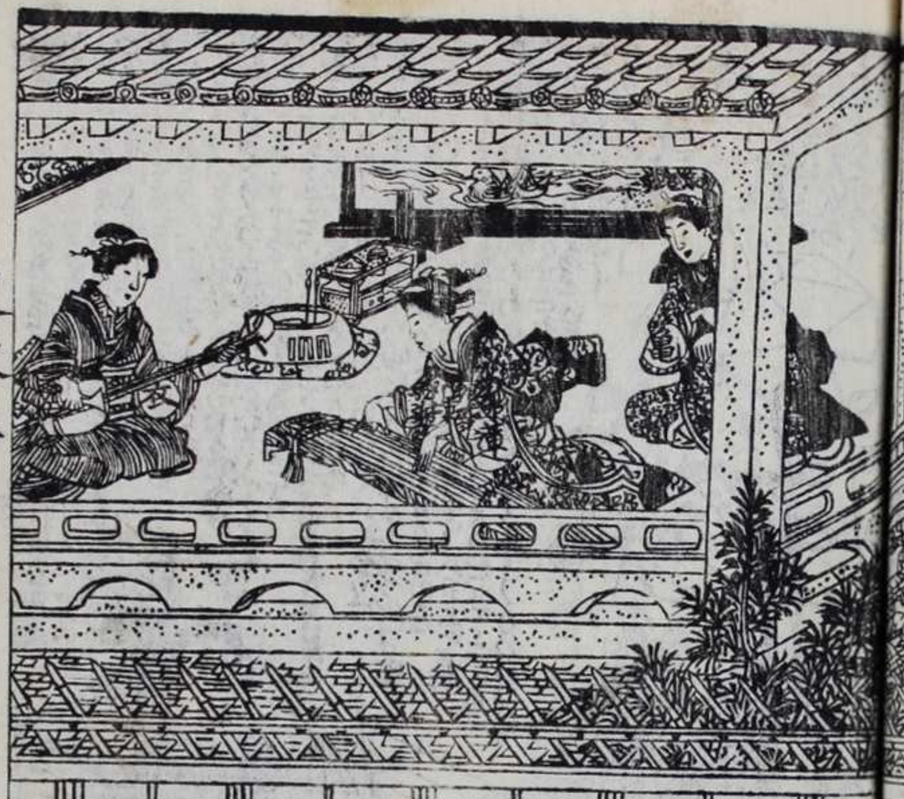
白拍子
鳥村の袖子

文

文

歌川貞秀画

笠亭仙果作



衣
楓

蓮
龜

蓮
柞

楓
檀

つゞき つくり花びらをさうりにおもひ
ものこゝろをさうりにおもひ
うりのやうにこのさうりをおもひ
をさうりにおもひうちわりをさうりに
ぎやまわりのきれおもの
てなどこゝろさうりにそのひざもとの
ひとうのこゝろのおもひねがひて
うりにてはいまうぬそのうりごゝろにて

うのふひとうわりいかうのうりわり
せぜにこをそんなきくもつくりをぜ
ゆくさうのこゝろのうりをぜきてようをぜ
ふゝの日ハこゝろをぜきてようをぜ
ひとりでのんぎするひとうのさうりのこゝろ
うのりめをりのこゝろ

めをひとつ
ゆえ
ゆうげのを

◎ おうらやハ
ひやこのあの
こゝろまでも
おもやへのうらうく
あうすゞそうろう
うまれてもあひよハ
てんちのうらうろうろう
文吉どのもりうだり
むづくもりんでおうらうゞ
ざうこのうこうこうもりひうこう
これうハおゞうんようこうろうろう

◪ おうらうこのいい
けんこふおうこそ
ちゞゆくめこそ
さるめれゞ
こうんごまと
のつゝうのれバ
つきづひもうたハ
うのさう
おそをもの
こゝそうハ
ちうつはゞど
するのようう
りやさんおうへ
とうーうぎう
ふうり
さうんむう
おそをうう
さいのそうくを
きそこと
りうり

○この半丁八、十八十九丁のあひだふるゞさうのきれめやをこれひきあひだうぐせう

ぜんやくさう
疝積湯
信州上田
東山堂製
一包代壹文

このたばこハ
こゝのさゝ
たゞぜんの
妙薬
ようきくさう
うりのあひ

弐本の
抜えあと
たゞえひやかひ

十さ
村

うこゝあるをきてまゐんのまへのむねくけれバ
十わんとうじとうこゝへのぐんごそのうるでりんそまゝまゐんさう
さまうれとさんとそるをまひてようぐめさそ
うのぶくのごろんぜうんぜるゆるおまりあり

待合
武
梅

武

文
八
浦

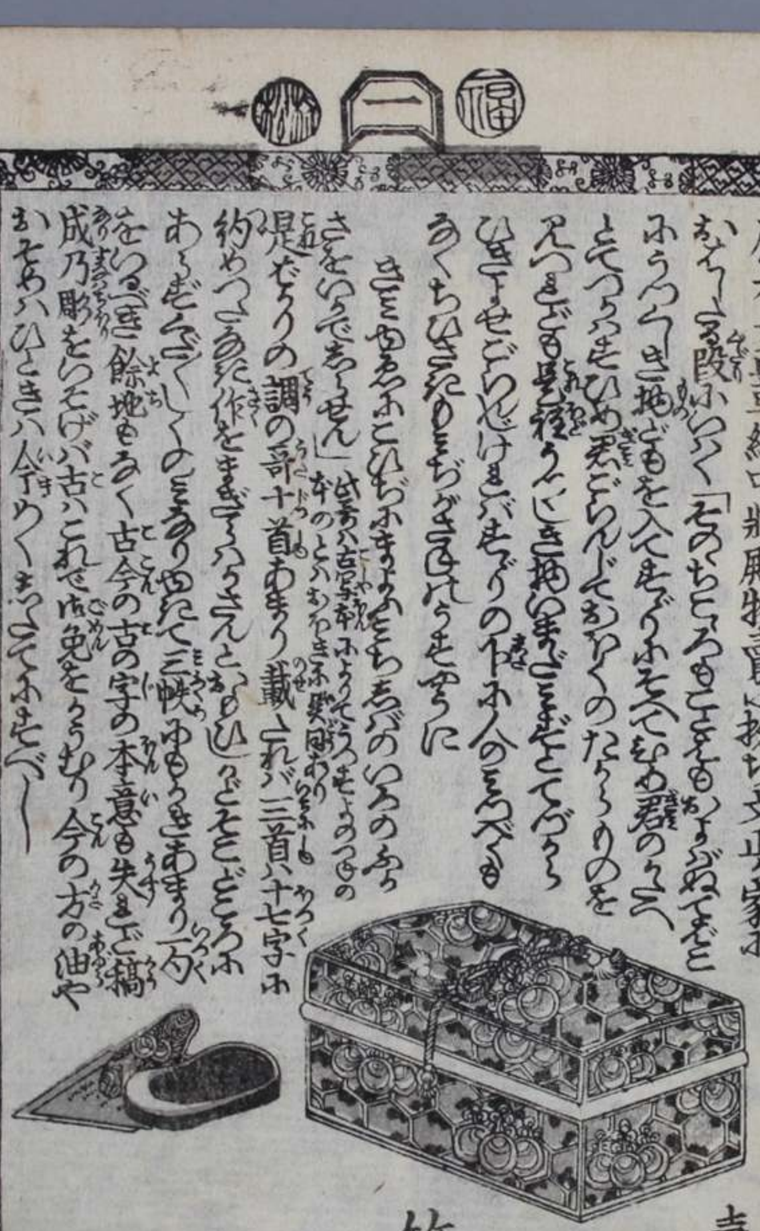
文
亥

蓮
亀

梅
檀

杵

笠亭仙果作
歌川貞秀画



嘉永三年庚戌謹春新刊

笠亭仙果戯述

二位中将 此時三位
敏通卿殿の
中を潜出給
ふ時柱に歌
かきたまふ
とよつろ
本文ゆへ
ときごとる
文正の艸紙の
まゝをゑがく
せて潤色と
るせり
金永藤馬

習ハうより熱よといへり
お蓮深窓に人となりて
さらに物見
遊山を
希ハぞ

侍女
蟇手

鶯鳴
前
常岡侍中

考川

文正女お蓮
藥師堂前にて
小鳥を放つ
圖

新勅撰集

さらえだやなぎ
ひらげまだときく
えちかぜの
かごとだより
逢坂の
関

都芳門院 安藝

鹿島太神宮
常陸帶の
故事。支ハ
清輔朝臣の
奥義抄下巻
まこ俊頼口傳

衣

若

二

つづき

若

さる

檀
糸

つぎ
柞

つゞき
蓮

衣
若

仙果作
國輝画

藤

楓

亀

与

四

涌

羊
藤

文

杵
糸

檀

侍

仙果作 國輝画

嘉永五壬子春新鐫目録

大晦日曙草紙 十七編 十八編 京山作 國政画

新靫田舎物語 六編 七編 一九作 國輝画

一名犬傳 犬の草紙 十八編 仙果録 宮編 北尊國画

塩屋文正 古今草紙合 七編 八編 仙果作 國輝画

御贄美少年始 六編 七編 一九録 國輝画

連理翅山雞奇縁 初編 二編 西馬補 國政画

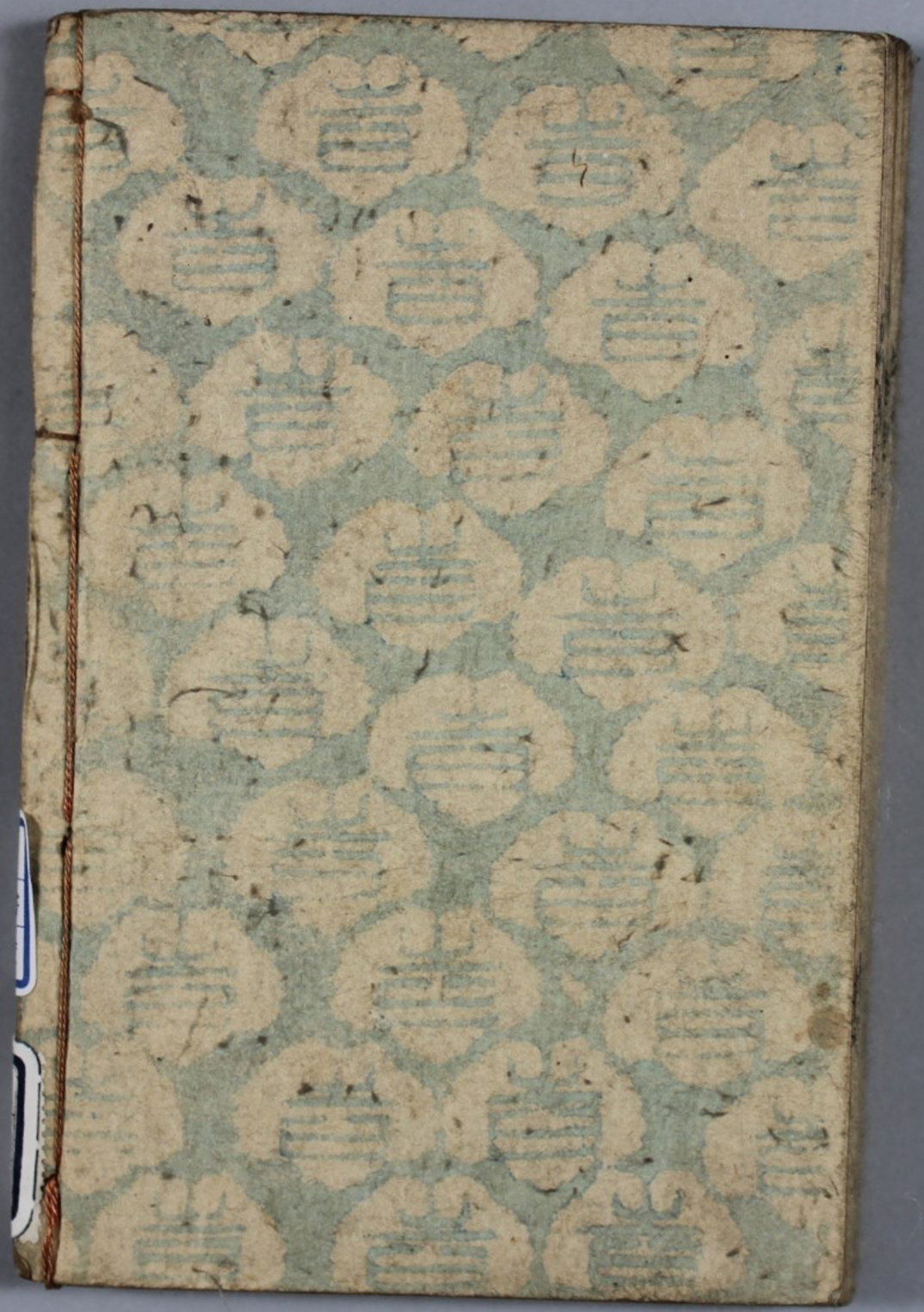
俠客傳仙摸略説 六編 七編 八編 西馬譯 國輝画

富士額天人於七 二冊 仙果作 芳虎画

嶋巡浪間朝日奈 三編 四編 種員譯 國輝画

春柳錦花皿 三編 四編 一九録 國輝画

府郷御江戸繪圖 大奉書 六枚つゞれ

大日本國郡輿地全圖 仝 六枚はぎ

地本錦繪 東都南傳馬町二丁目 蔦屋吉藏